

Q. 8段・10段の縦ガイドは何の役に立つの？

一文字一文字をしっかりと確認しながら書けます。分かち書きの練習にも最適です。

ガイド線(縦の点線)にはさまれた1マスは小文字1文字の大きさの目安です。

What's your name?

書いたあと見直ししやすいブルー罫

文のはじまりは大文字になります。2マスぶん使うとバランスよく書けます。
単語と単語の間がしっかりあけられます。

My name is Kenta.

一文字一文字をていねいに練習するためのガイド線つき文字数の確認や単語のスペルチェックにも便利です

「i」や「l」は、つめて書くときれいに見えます。
「m」や「w」は2マスぶん使うとバランスよく書けます。

Q. 8段・10段の表紙のセンテンスは何か意味があるの？

パングラム (pangram) というアルファベットを使用した言葉遊びです。

The quick brown fox jumps over the lazy dog.

パングラムとは、ラテン文字のアルファベット26字をすべて使い、かつ重複をなるべく少なくした短文のことです。「すばしっこい茶色の狐は怠け者の犬を飛び越える」というこの一文は、英語のパングラムの代表的な一つであり、タイプライターやコンピュータのキーボードの試験などによく用いられています。一文字一文字をしっかりと確認しながら書くというこのノートの主旨に良く調和しています。

Q. だれが監修しているの？

立教大学の藤田保教授が監修するブルーライン英語ノートのメリット



この英習罫の大きな特徴の1つが、文字を書くときの基準となる“ベースラインが青い”ということ。紙面が目にはやさしく、書いた文字が読みやすいので、つづりの確認がしやすく、正しく英単語を書くことにつながります。もう1つの特徴は“縦のガイド線がある”ということです。これにより、アルファベットを書き慣れていない人でも比較的容易にバランスのよい文字が書けるようになります。また、英語の初心者にとっては分かち書きが難しいのですが、このガイド線があることで単語と単語の間のスペースをしっかりと意識することができ、きれいに英文を書くことができます。

監修者紹介 藤田 保 (ふじた たもつ)

立教大学異文化コミュニケーション学部教授。専門は応用言語学(バイリンガリズム)と外国語教育。英語のカリキュラムや教授法などの開発研究に携わる。著書に『21年度から取り組む小学校英語一全面実施までにこれだけはー』(教育開発研究所、共著)、『英語教師のためのワークブック』(アルク)、『「英語が使える日本人」の育成のための英語教員研修ガイドブック』(文部科学省(開隆堂出版)、共著)などがある。小学校での英語教育の普及・発展を支援するNPO小学校英語指導者認定協議会(J-SHINE)のトレーナー検定委員でもある。

開発者の声 学習者の効率・意欲の向上につながってほしい

藤田先生のご協力が発売前に試作品を用いたアンケートをとることができ、実際に子ども達の意見を聞いたおかげで、その後の開発に反映させることができました。この「ブルーライン英語ノート」はその最終的な仕様となります。

初心者におすすめの8段・10段には、本文罫に小文字1文字の大きさの目安となる縦ガイドを採用しました。綴りを調節しやすいよう、全角の幅を持たせていますが、単なる方眼に見えないようにするため鎖線と横のラインとのバランスに特にこだわりました。このノートを使ってアルファベットを書くことを楽しんでいただければうれしいです。

また、青いベースラインの英習罫は、開発チームが取り組みたかったことでもあります。ノートは本来、見直すためにとるもの。本気で英語を勉強している方へ、習字のあと見直しがしやすい「ブルーライン英語ノート」はおすすめです。

